

女性漆芸家の道を開く

輪島で初めて女性で漆芸作家の親方となった天野文堂は、

明治二十九年（一八九六）、河井町住谷千次郎の長女として

生まれた。名をわかのとい

った。明治四十三年三月、わか

のは輪島女児尋常高等小学校を卒業すると沈金師坂上藤太郎のもとへ弟子入りした。



天野文堂

にできること

を、女ができない

ということはない」と、彫りを望

んだ。彼女の情熱は親方の心を動か

し、入門一年後にはのみを持たせてもらった。

大正元年（一九

一二）、年期が明

かないうちに親方が死去したので、

同じ沈金師の藤井観文の門弟となつ

た。わかこの彫りの巧みに驚いた

観文は、はじめからのみを持たせてくれた。わかの一六歳の時である。

それから六年間修業を積み、年期が明くと、三年後に鳳至



文堂の作品「椿沈金巻葉入・盆」

町の蒔絵師天野三郎と結婚した。夫のあたたかい理解と師観文のきびしい指導のもとで、それからも修業は続けられた。二八歳のとき、観文から「文